



## ご挨拶



四條畷市卓球連盟

会長 松尾 和明

昨年からコロナ禍が席卷し、連盟活動も大きく制約を受けていますが、四條畷市卓球連盟は本年令和3年で創立50周年を迎えることができました。これもひとえに四條畷市、教育委員会、体育協会、北河内卓球連合会、卓球愛好者の皆さん、連盟の歴代理事のご指導ご支援の賜物と深く感謝を申し上げます。

振り返ると、私が就職を機に四條畷の地を踏んだのが昭和41年で、45年に「市」に昇格した頃、初代小林会長が設立準備に奔走され、46年1月に卓球連盟は産声を上げました。

2代目の岸会長は現在も続く校区大会を創設し、市の卓球人口増大に寄与され、北河内卓球連合会の初代会長としても活躍され、四條畷はおろか北河内7市の卓球の発展に尽力されました。

3代目の川島会長は最後には市の体育協会長に就任、市と卓球連盟の太い絆作りに奔走されました。そして4代目の越智会長はスポーツ少年団を中心に、多くのアスリートを育成されました。

その後、平成12年に5代目会長を私が拝命しました。

すでに市民待望の「四條畷市民総合体育館（サンアリーナ）」が開館されていて、卓球愛好者も増加し、広くて明るい体育館でオープン大会も活発に運営できるようになりました。連盟が更に発展・拡大し、その象徴が大東市卓球連盟と共催のVICTAS杯少年大会（旧TSP杯）です。毎年近畿はもとより、中四国、東海、北陸から選手500名、監督・コーチ・保護者200名の規模の大会となり、過去にはオリンピックメダリストの石川佳純や伊藤美誠も参加。日本卓球界の若手の登竜門となっています。

また近隣各市連盟との交流も大切にしているのも連盟の強みと自負しています。松原市・大東市とは24年間にわたり理事中心のラージボール大会を開催することができました。

そして何よりも大切にしているのが、市の卓球愛好者と連盟理事との距離感です。平日を中心に、練習や試合の場としての「畷会」と、市内外の交流の場として「日曜開放」を積極的に開催し、かつては校区大会（岸杯）の後の合同懇親会や理事長杯での豚汁提供は30年近くにわたるなど、長く交流を深めることができています。近年では高齢化とウォンツ対応としてシニアの部の創設、決勝リーグの導入、インターネット申込みもいち早く採用し、時代のテンポに遅れることなく成長を意識しております。

最後になりましたが関係各位に深謝し、次の60周年へと更なる発展をお約束し、開会のご挨拶とさせていただきます。